

きくち農業・最適化推進運動

農委会名：菊池市農業委員会

1 地域の概要

菊池市は平成17年3月に4市町村（菊池市・七城町・旭志村・泗水町）が合併してできた「豊かな水と緑、光あふれる田園文化のまち」である。熊本県の北東部に位置し、豊かな水資源と肥沃な大地を生かした農林畜産業を基幹産業としており、特に畜産業においては全国有数の算出額を誇っている。

また、菊池米・水田ごぼう・イチゴ・メロンなどの農産物も豊富にあり、中でも「七城のこめ」は、日本穀物検定協会の食味ランキングにおいて最高評価である「特A」を毎年獲得している。また、市独自の安全・安心を示す「菊池基準」を設け、農林畜産物をインターネットショップ（菊池まるごと市場）により、全国に発信、販売している。

2 農業委員会の体制

- (1) 農業委員数 19人（うち、認定11人、女性5人）
- (2) 推進委員数 30人（うち、認定15人、女性0人）
- (3) 事務局体制 7人（専任4人、兼任3人）

3 掲げた目標

担い手へ農地の集積・集約化面積 200ha
遊休農地解消面積 3ha

4 目標達成に向けた取組み（運動）の内容

- (1) 担い手への農地利用の集積・集約化
 - ① 経営の廃止・縮小を希望する農業者が所有する農地や利用権設定期間が満了する農地等をリスト化し、それを基に担当地区の農業委員及び農地利用最適化推進委員による受け手へのマッチングを実施した。
 - ② 区画・形状・作業効率等の条件面から受け手を見つけ難い中山間地域の農地については、簡易な基盤整備事業の活用と併せて集落営農の組織化・法人化を推進するなど、地域の実情に応じた取組みを行った。
- (2) 耕作放棄地対策
 - ① 農業委員及び農地利用最適化推進委員が日頃から農地の巡回パトロールを行うとともに、事務局職員との調査を併用した。
 - ② 農業委員及び農地利用最適化推進委員が個別に意向調査を実施し、遊休農地の解消に努めた。
- (3) 新規参入の促進

熊本県新規就農支援センターや市農政課、JA等の関係機関・団体と連携しながら新規就農希望者向けの相談会を開催するとともに、担当地区の農業委員及び農地利用最適化推進委員による個別相談・農地情報の提供等を行った。

別紙様式①

- (4) 目標地図の素案作成に係る意向調査説明会の開催と調査の実施
地域計画策定に伴う目標地図の素案作成に先立ち、農地所有者を対象にした説明会と意向調査を実施した。



【農地パトロールの様子】



【地域計画説明会風景】

5 取組みの成果

- (1) 担い手への農地利用の集積・集約化
新規集積面積が200haあり、全体の集積面積は3,202haとなり、集積率は55.4%であった。
- (2) 耕作放棄地対策
解消実績は、2haであった。
- (3) 新規参入の促進
新規参入者は3経営体であった。
- (4) 説明会
対象地区208地区に対し説明会及び意向調査を実施した。

6 課題と今後の方針等

- (1) 担い手への農地利用の集積・集約化
農地利用に係る意向把握・地図による現況把握（耕作状況の見える化）・農地利用の方針策定（中心経営体への農地集積）等、「人・農地プラン」の実質化に向けた様々な活動へ農業委員・農地利用最適化推進委員が積極的に関与することによって、最終目標である「集積率80%」の達成を目指す。
- (2) 耕作放棄地対策
山間地・中山間地における農業者の高齢化や後継者不足が顕著であることから、更なる遊休農地の発生が懸念される。
- (3) 新規参入の促進
関係機関・団体との連携を図りながら、引き続き新規就農希望者の受入体制の強化に努めるとともに、農地・資金・営農技術等就農後のフォローアップにも注力することによって、次代の担い手の育成・確保につなげていく。
- (4) 意向調査の集計・取りまとめ及び目標地図への反映
回収した調査票を集計・取りまとめを行い、目標地図の素案の作成を行う。